



スズキの成長戦略

野村証券 個人投資家様向け説明会


2024年1月24日

スズキ株式会社
代表取締役社長 鈴木 俊宏



1. スズキ株式会社について
2. インド市場について
3. 今後の展望
4. スズキの成長戦略
5. 株主還元・株式分割について

1. スズキ株式会社について

社名：	スズキ株式会社	
設立年月：	1920年（大正9年）	
代表者：	鈴木 俊宏（代表取締役社長）	
連結従業員数：	70,012人	
連結売上高：	4兆6,416億円（2023年3月期）	
本社所在地：	静岡県浜松市	
連結子会社数：	120社（国内：66社、海外：54社）	

※2023年3月末時点

スズキの歴史

- 1909年 鈴木式織機製作所創業
- 1920年 鈴木式織機株式会社設立
- 1952年 二輪車進出
- 1954年 鈴木自動車工業(株)に社名変更
- 1955年 四輪車進出
- 1965年 船外機進出
- 1968年 初の二輪海外生産 (タイ)
- 1975年 初の四輪海外生産 (パキスタン)
- 1979年 アルト発売
- 1981年 GMと業務提携 (→2008年解消)
- 1983年 インドマルチ社で四輪車生産開始
- 1990年 スズキ株式会社に社名変更
- 1993年 ワゴンR発売
- 2004年 世界戦略車スイフト発売
- 2013年 四輪車世界累計販売5,000万台達成
- 2016年 トヨタと業務提携検討開始 (2019年資本提携に関する合意)
- 2021年 新体制と「中期経営計画～小・少・軽・短・美～」を発表
- 2023年 2030年度に向けた成長戦略を発表



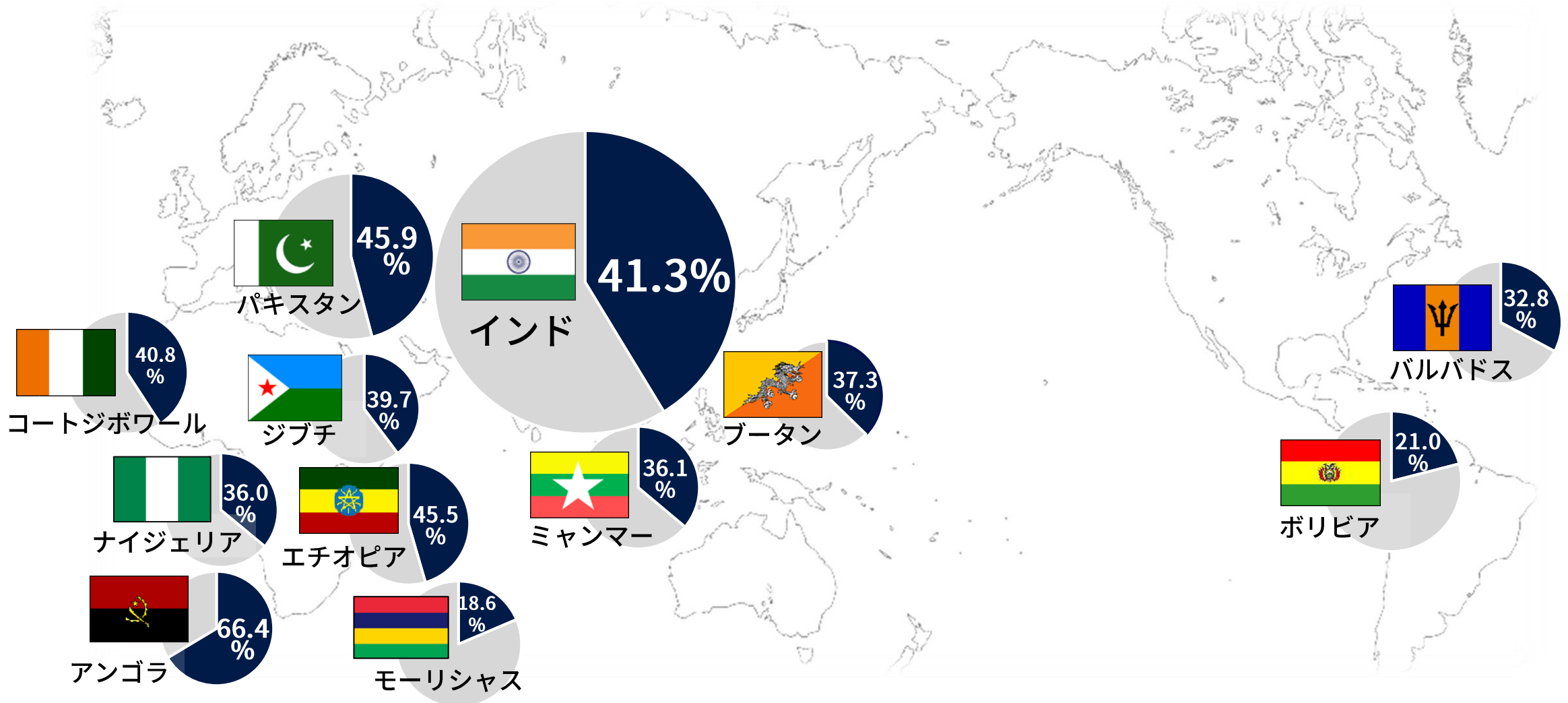
1909年創業当時の鈴木式織機製作所



創業の地
浜松市中島町



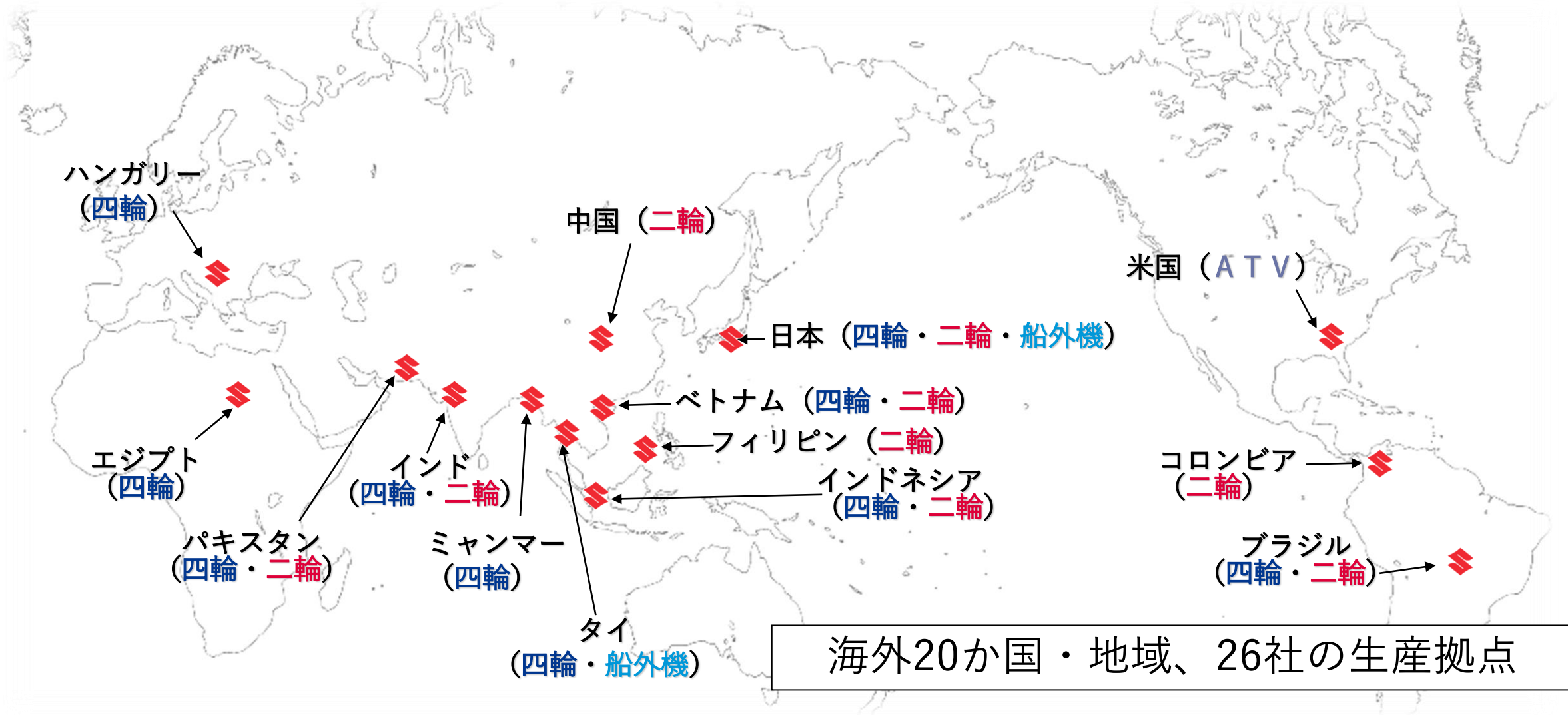
世界12か国で四輪車シェア1位



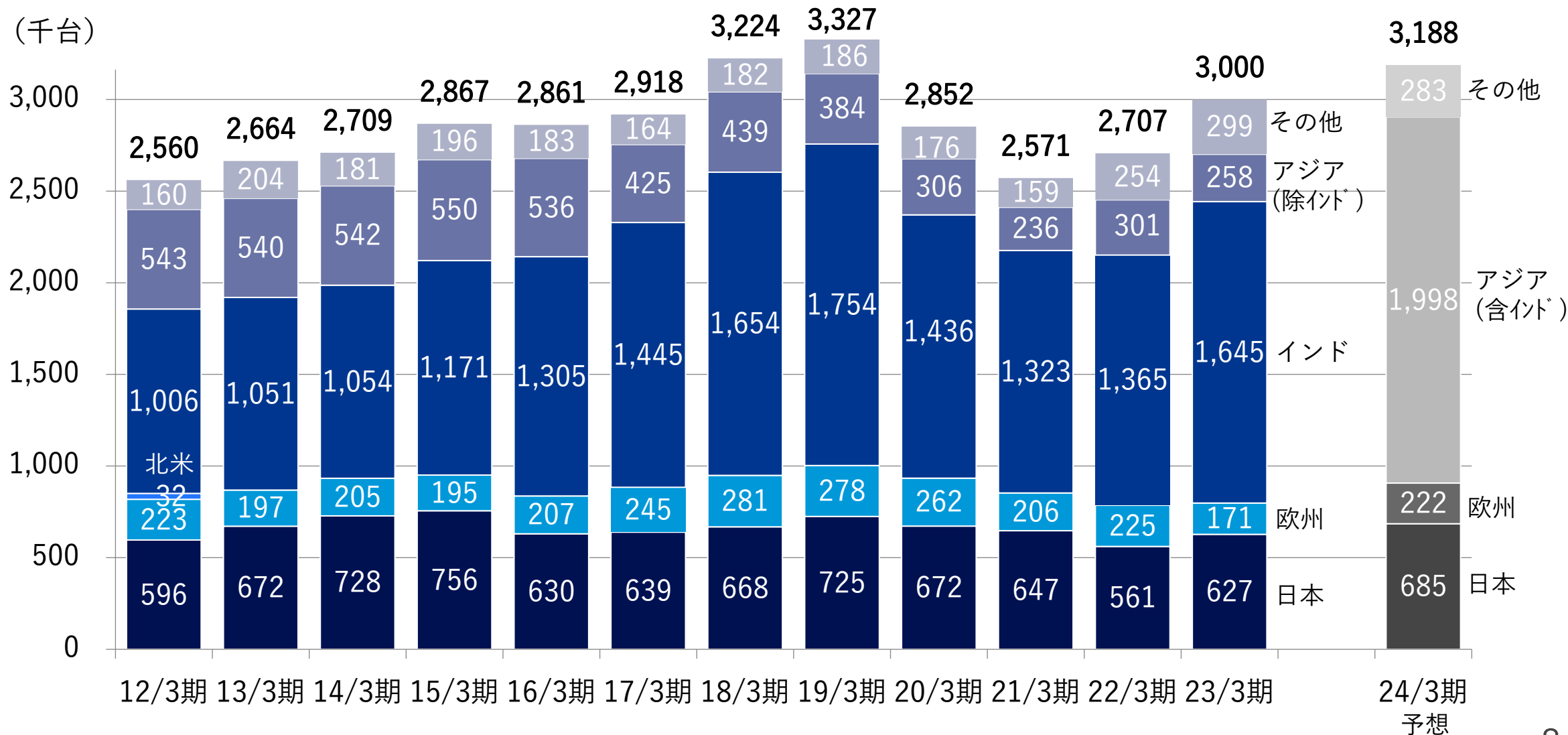
注. 23年3月期実績、スズキ調べ

・インドは乗用車シェア ・パキスタンは輸入車除く ・コートジボワールは22年暦年

アジアを中心に20か国・地域で生産



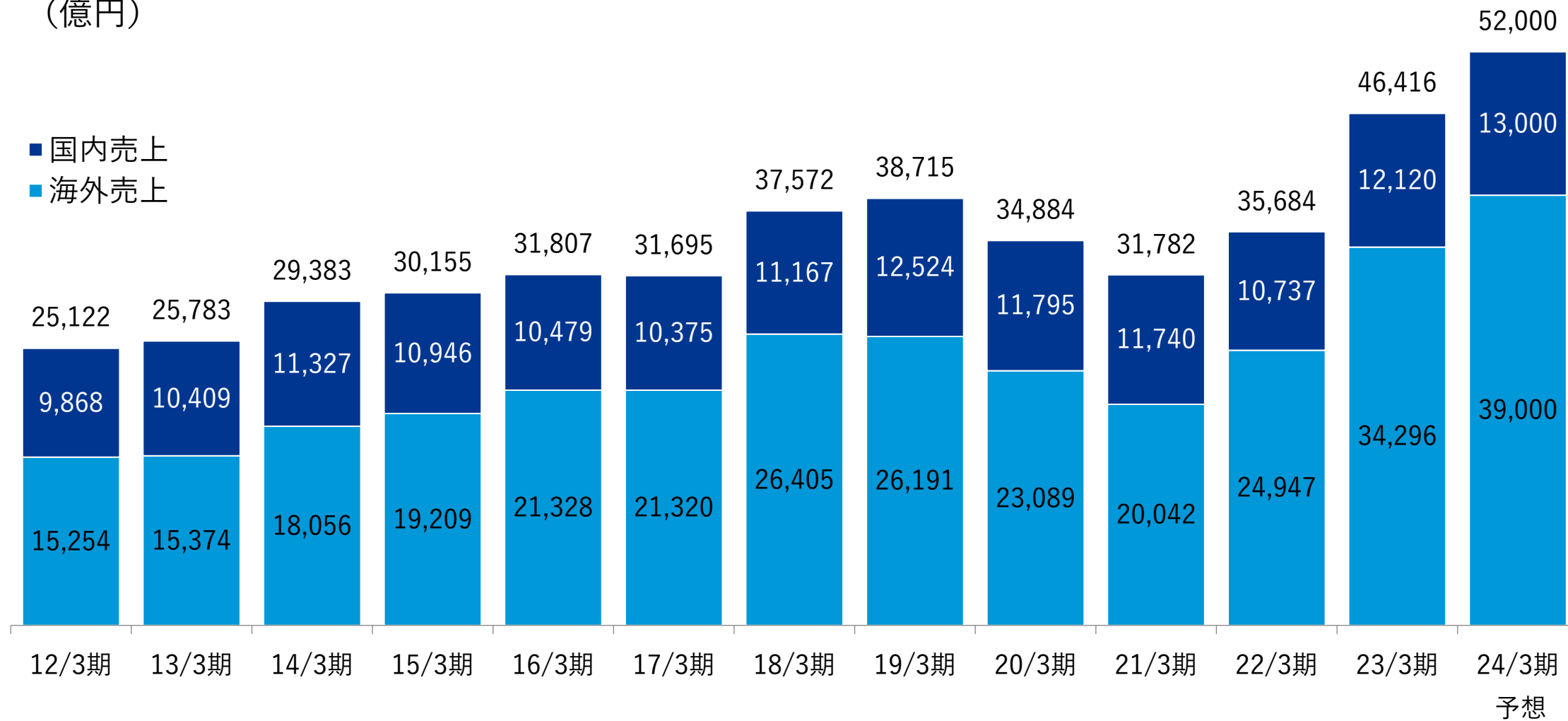
2023年3月期は日本・インドを中心に増加



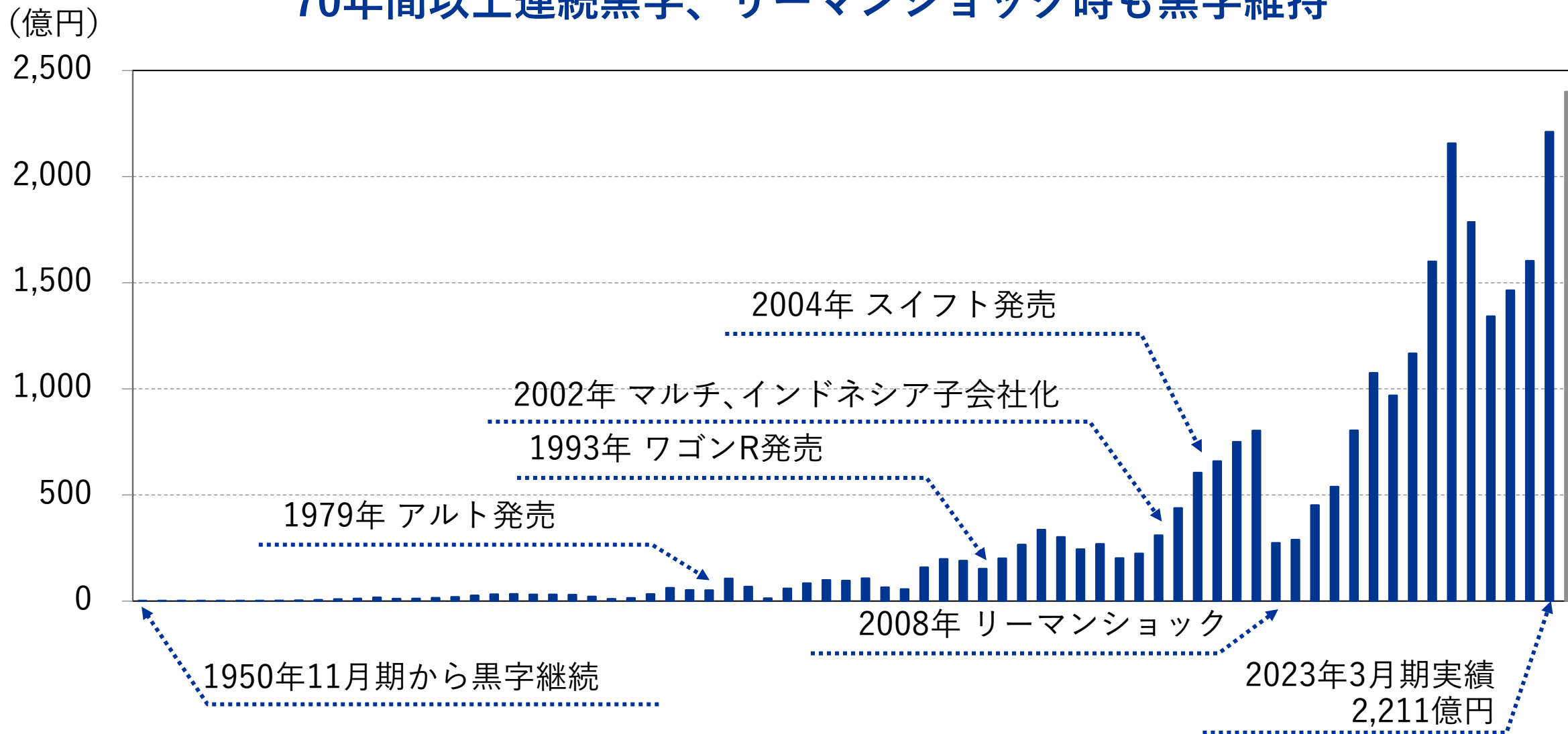
2023年3月期は2期連続増収

(億円)

- 国内売上
- 海外売上



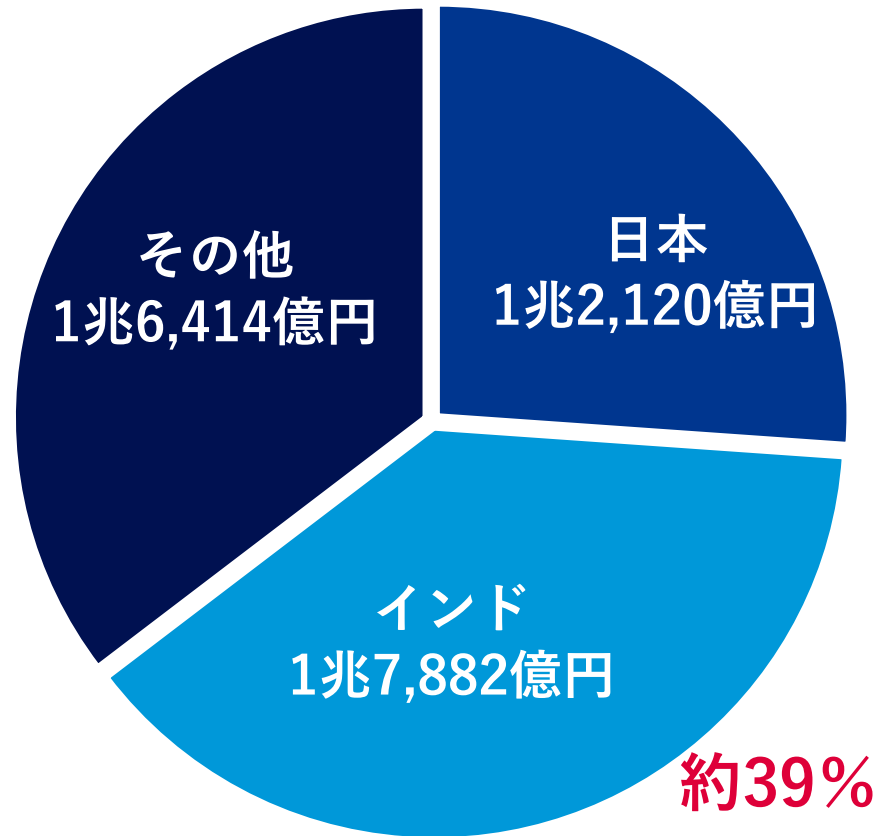
70年間以上連続黒字、リーマンショック時も黒字維持



注. 1950年11月期から1977年3月期までは単独当期純利益（1975年3月期までは年2回決算）、1978年3月期以降は連結当期純利益

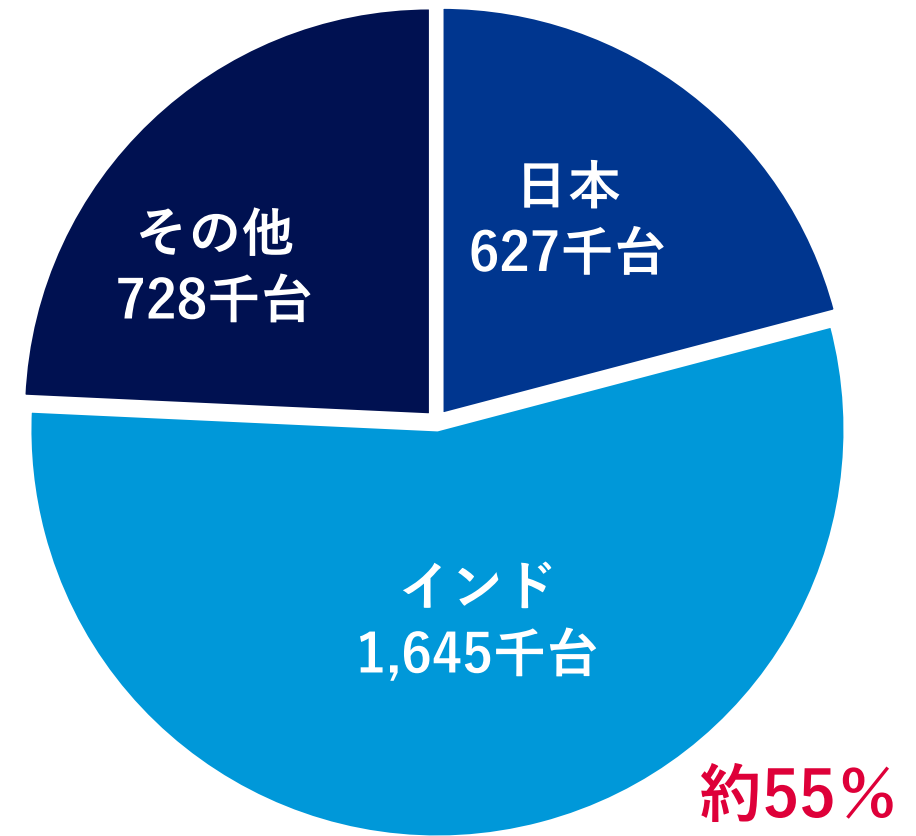
連結売上高（地域別）

2022年度 4兆6,416億円



四輪販売台数（地域別）

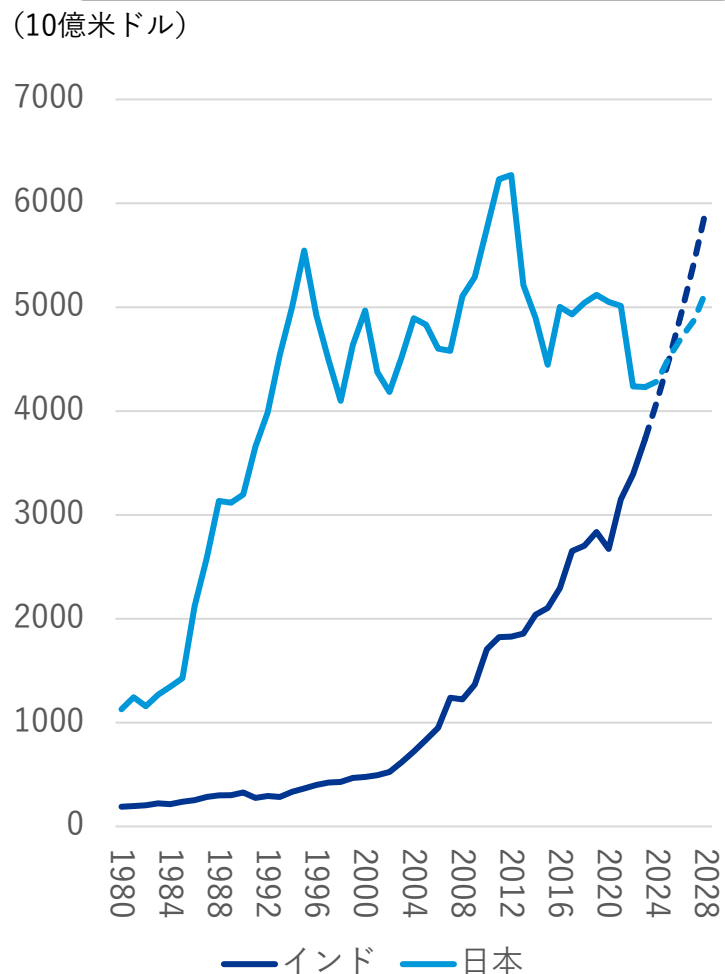
2022年度 3,000千台



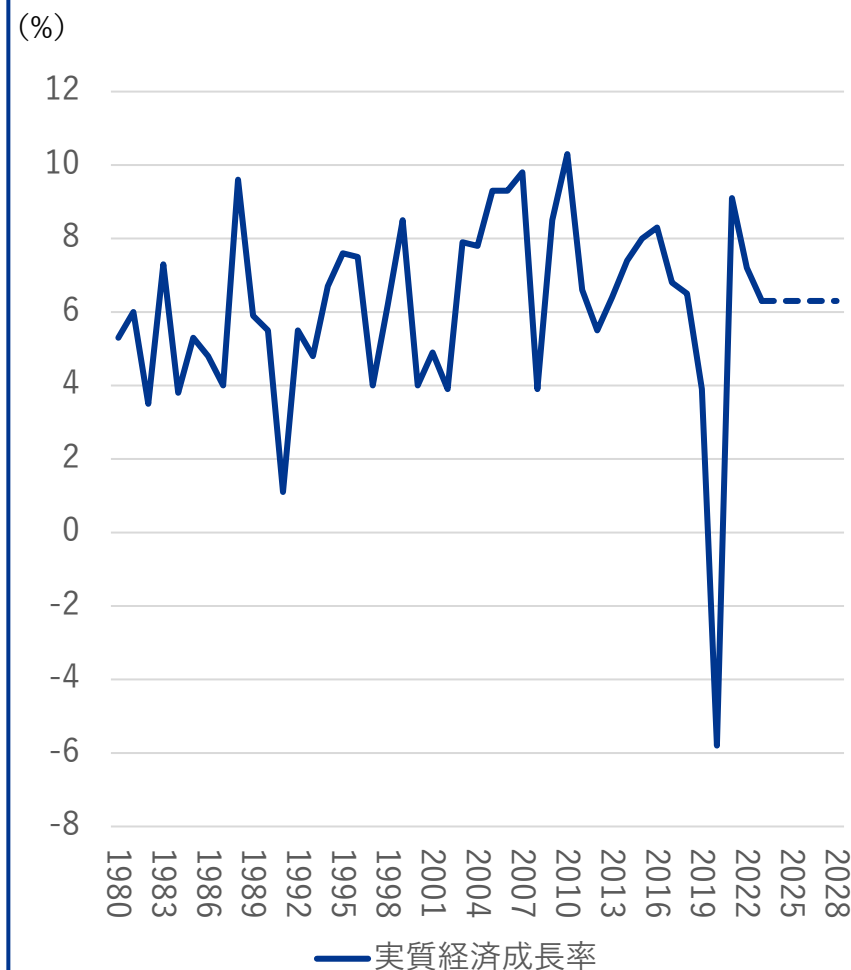
2. インド市場について

インド経済概況 | 実質国内総生産(GDP)・経済成長率・人口

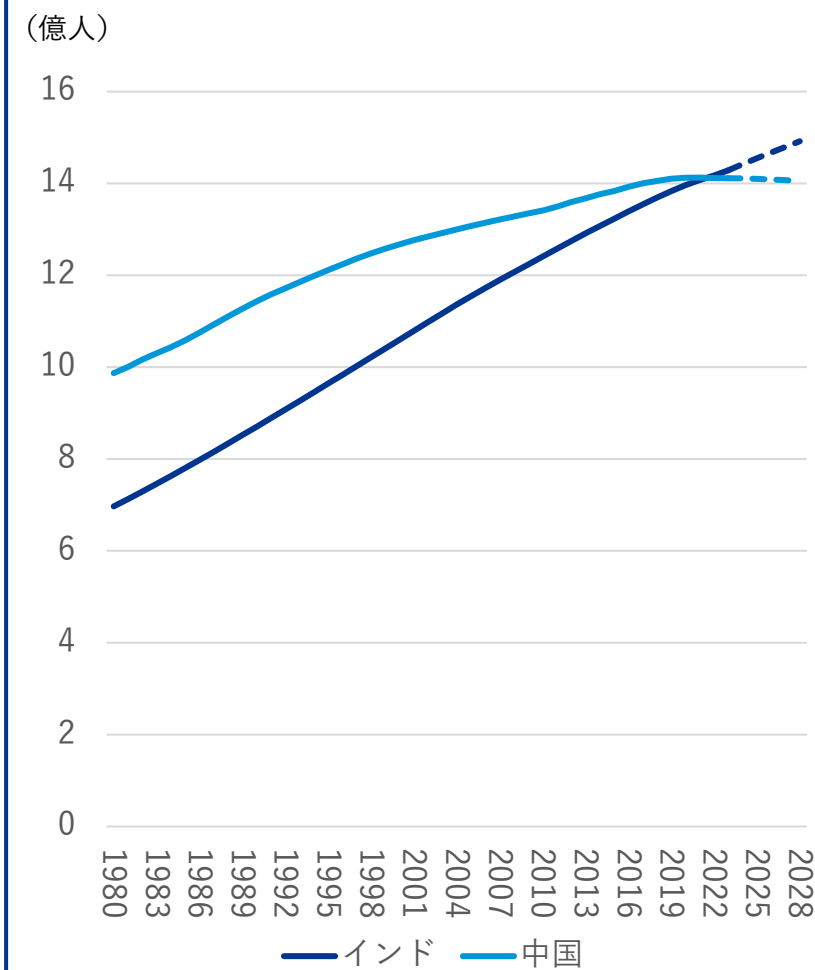
実質国内総生産(GDP)



経済成長率

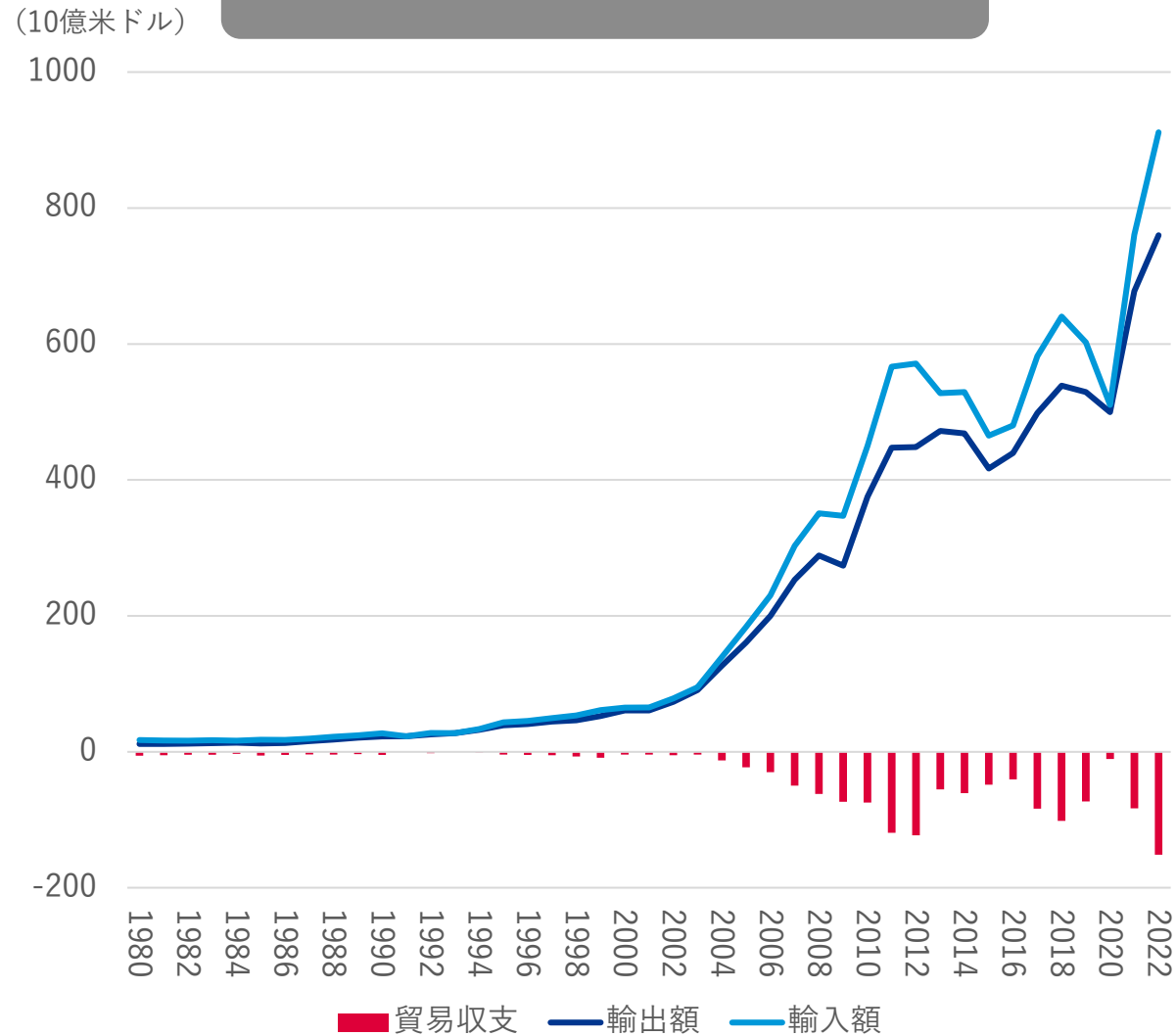


人口



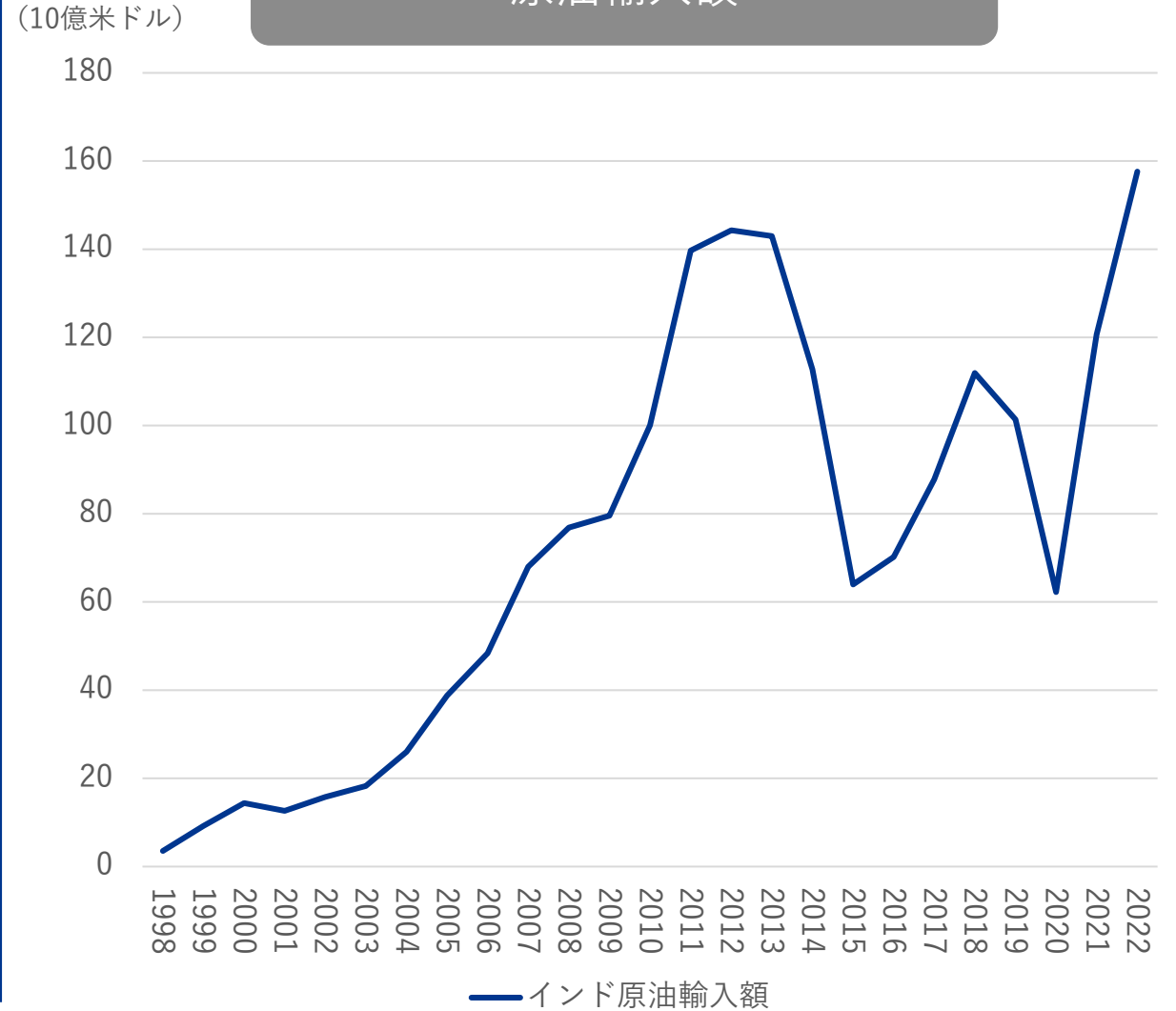
出典は全てIMF。グラフ破線（2023年度～2028年度）はIMF予測。

貿易収支



出典：macrotrends

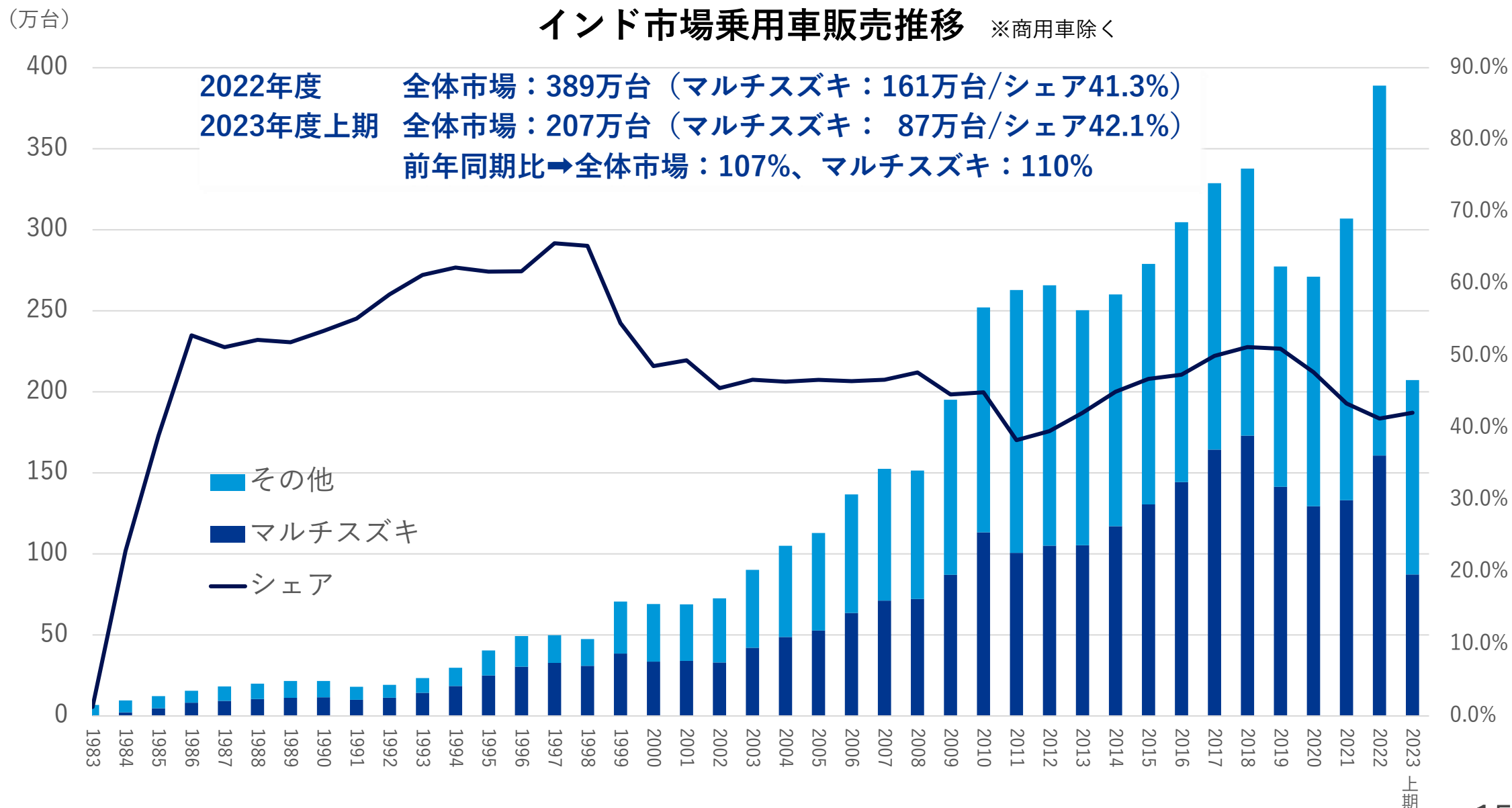
原油輸入額



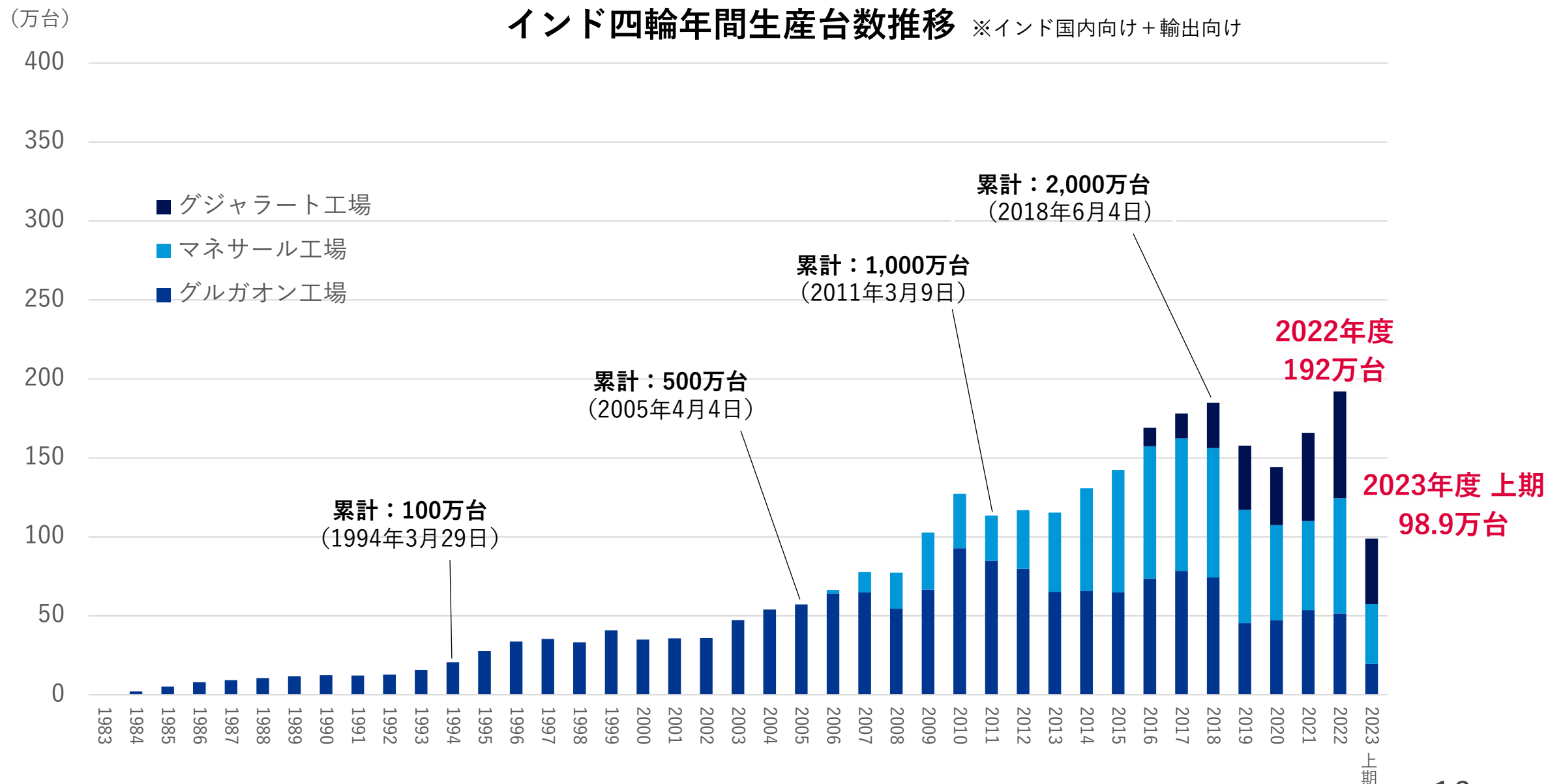
出典：インド石油天然ガス省石油計画分析室(PPAC)

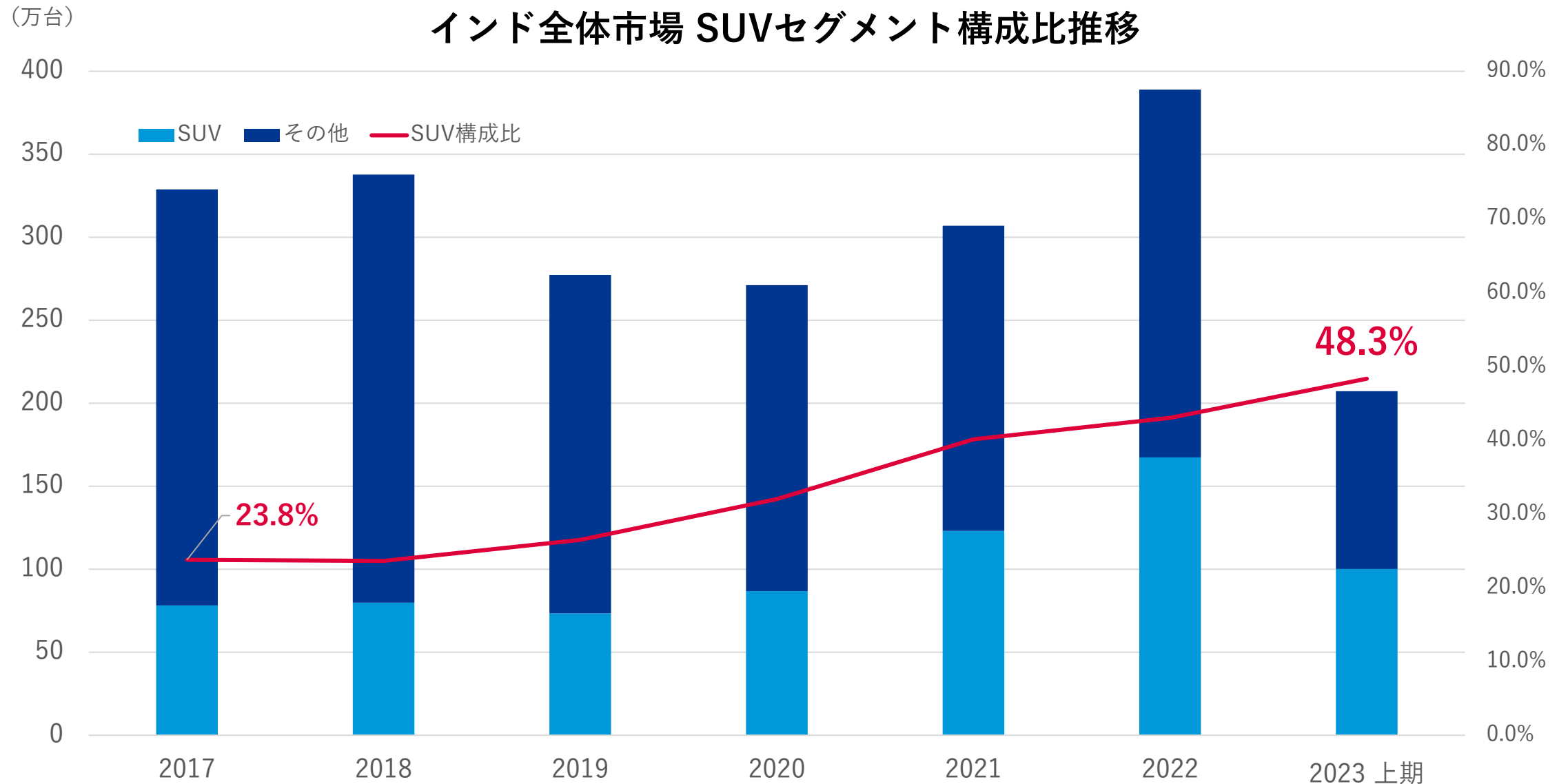
© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved.

インド市場乗用車販売推移



インド生産実績推移





SUVの新モデル投入



Fronx (2023年4月販売開始)

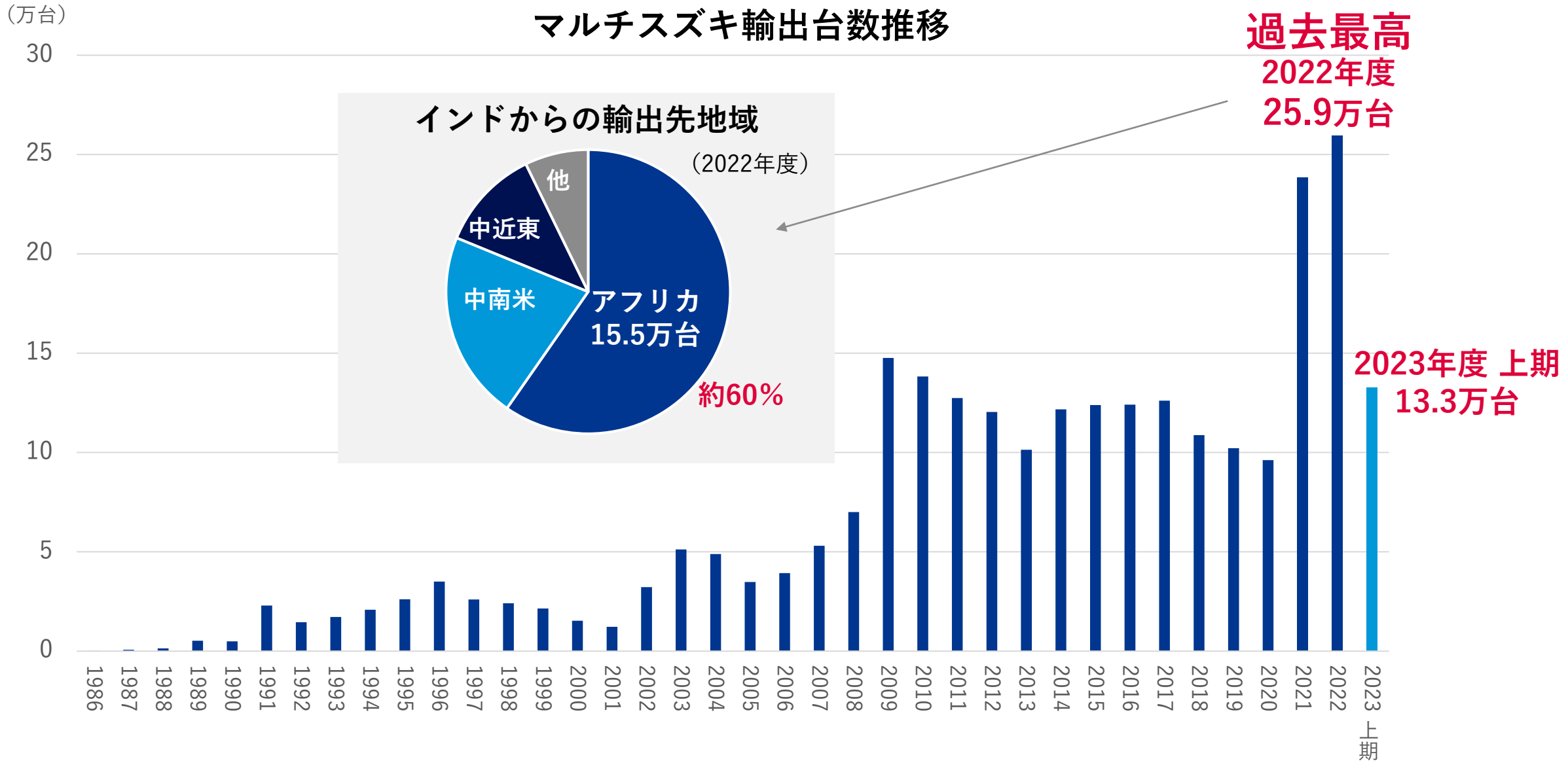


Jimny 5-Door (2023年6月販売開始)

SUVシェアの増加

2023年度上期 : **21.7%** ※2022年度通期 : 12.1%

マルチスズキ輸出台数推移



3. 今後の展望

2024年1月 インド最大規模の投資誘致イベント「バイブラント・グジャラート」にて以下を発表

グジャラート新工場の建設

- グジャラート州に2番目となる新工場の建設について州政府と基本合意
- 2028年度稼働開始、将来的な年間生産能力は100万台
- 投資額は3,500億ルピー（約6,000億円）

SMG第4生産ラインの増設

- BEVの増産を視野にスズキモーターグジャラート社（SMG）に第4生産ラインを設置
- 2026年度稼働開始、生産能力は25万台
- 投資額は320億ルピー（約550億円）



インド・モディ首相（右）とスズキ 鈴木社長

インド経済成長目標 “Amrit Kaal” (成長と繁栄の時代)

- インド独立100周年を迎える2047年までの25年間で世界第2位の経済規模を目指す
- 経済とCNを両立させる政府方針

インド全体市場：
600万台
マルチスズキ：
300万台 (シェア50%)
6モデルのBEVをラインナップ

マルチスズキ：
インド初のBEV投入

インド全体市場：
前年比+5~7%
マルチスズキ：
上記を上回る見通し

乗用車市場：389万台
マルチ：161万台
シェア：41.3%

カーボン
ニュートラル
達成目標

2022年度 2023年度 2024年度

2030年度

2047年

2070年

インドは中長期的にまだまだ成長が見込める市場

インド | 販売・サービス体制の強化

販売店網の拡充… 4つの販売チャネル

- ARENA
 - ・都市部（大規模店等）
 - ・地方部（中規模店、小規模店、巡回サービス等）
- NEXA
 - ・プレミアム車販売網
- Commercial
 - ・商用車販売網

NEXA



移動式ワークショップ



ARENA - MAIN OUTLET



ARENA - E OUTLET



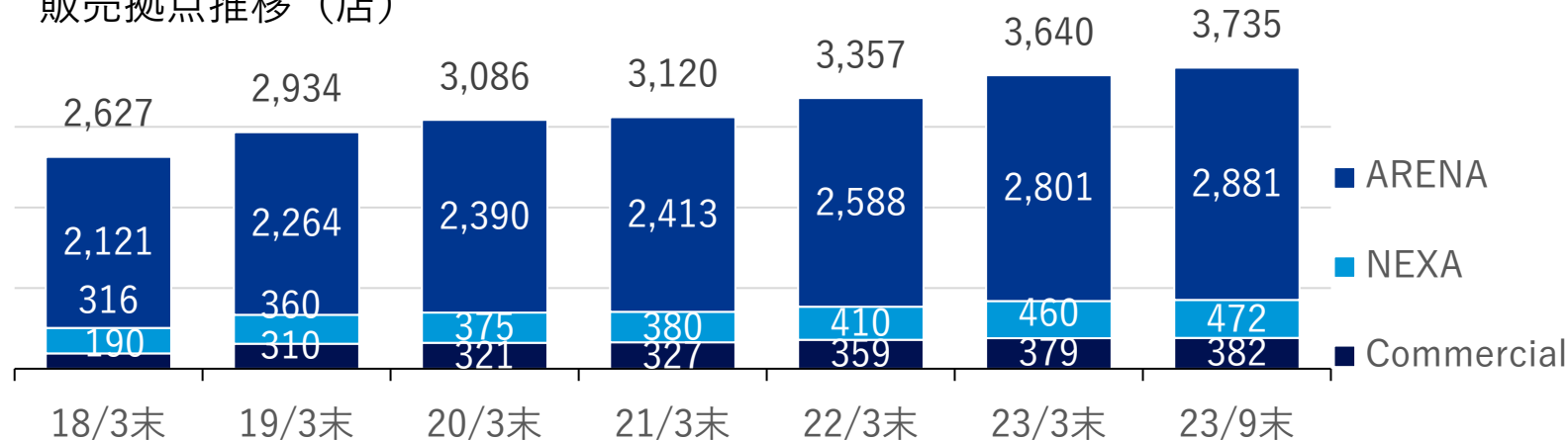
ARENA - R OUTLET



TRUE VALUE

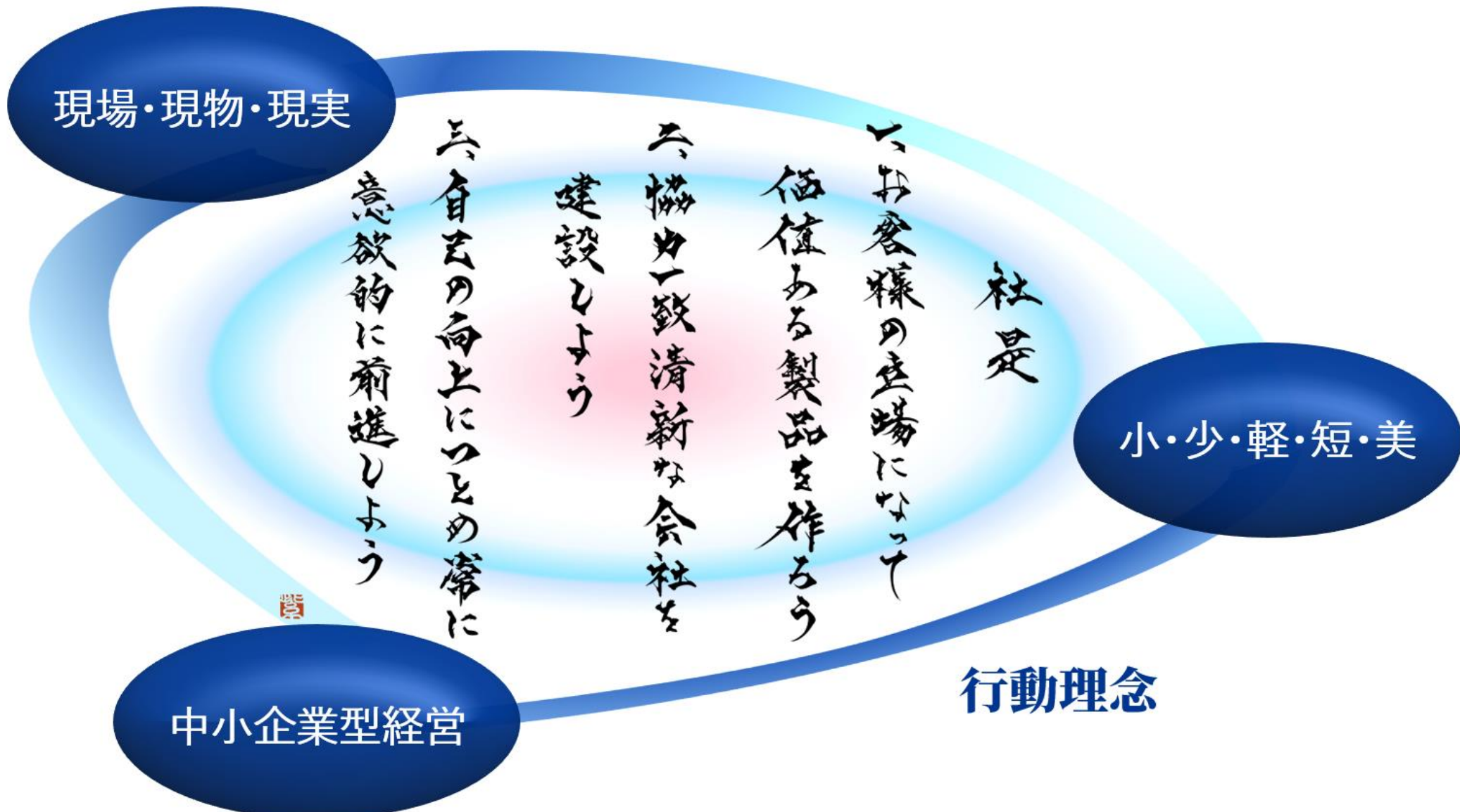


販売拠点推移（店）



- True Value
 - ・中古車販売網 2024年1月11日時点で558店舗

4. スズキの成長戦略



現場・現物・現実

社是
一、お客様の立場になって
価値ある製品を作ろう
二、協働で致清新な会社を
建設しよう
三、自己の向上にひとめ帯に
意欲的に前進しよう

小・少・軽・短・美

中小企業型経営

行動理念



日本・欧州

技術・製品を作り出し、磨く

インド

広く・深く・徹底的に根付き
社会とお客様の期待に応える

アフリカ

将来有望な市場

カーボンニュートラル達成目標



日本

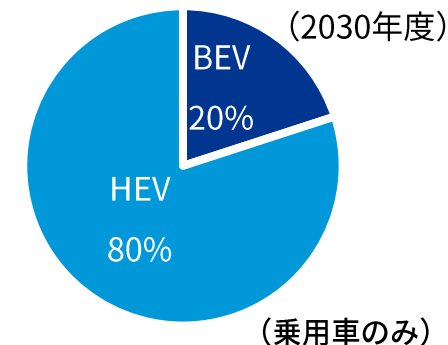
バッテリーEVラインナップ



6モデルを展開



パワートレイン比率



欧州

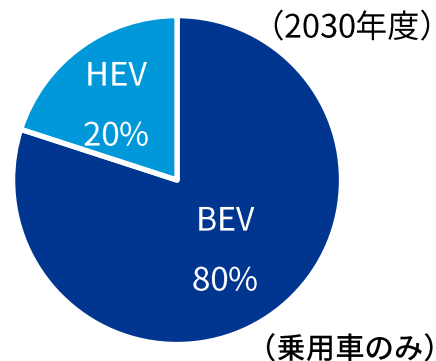
バッテリーEVラインナップ



5モデルを展開



パワートレイン比率



インド

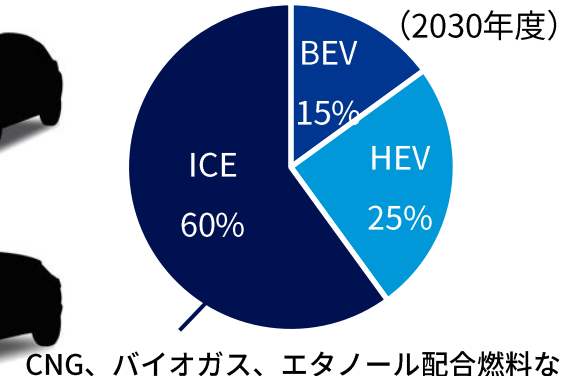
バッテリーEVラインナップ



6モデルを展開



パワートレイン比率



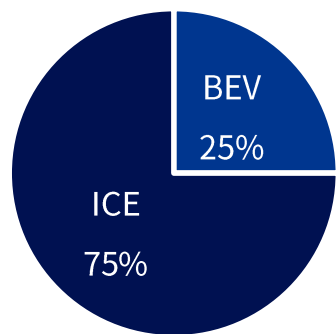
2030年度までの製品計画（全世界）

二輪

バッテリーEVラインナップ

パワートレイン比率

(2030年度)

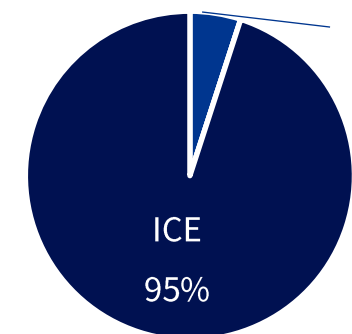


マリン

バッテリーEVラインナップ

パワートレイン比率

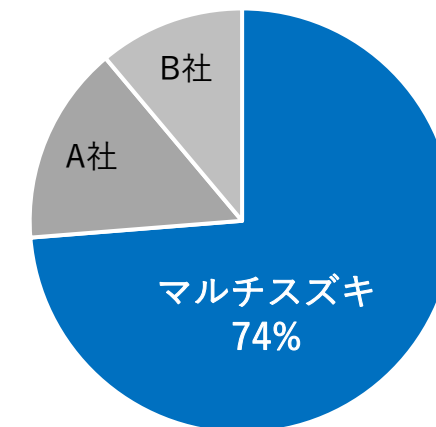
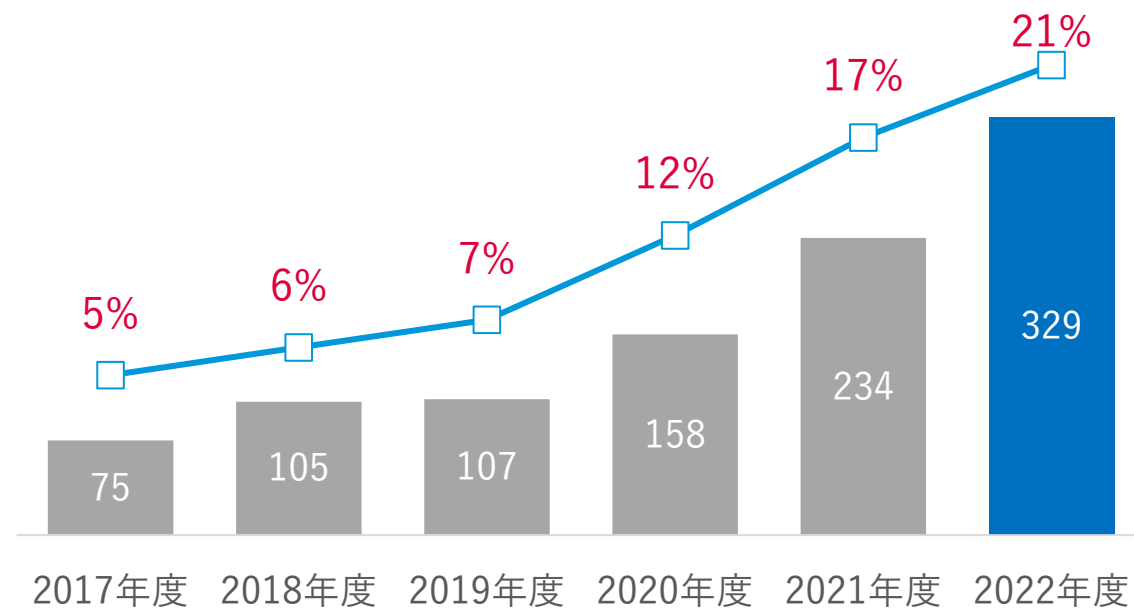
(2030年度)



圧縮天然ガス (CNG)

- CNG車は、低価格で低CO2排出が特徴
- 乗用車14機種、商用車1機種にCNG仕様を設定
- CNG車のマルチスズキシェアは、74% (2022年度)
- インド政府もCN達成に向けて、CNG車活用を掲げる

インドでのマルチスズキのCNG車の販売台数 (千台)
 マルチスズキ販売車両におけるCNG車の割合 (%)



CNG車シェア内訳(2022年度)



牛糞由来バイオガス(CBG)

従来：大気中のCO₂ ⇒ 牧草 (光合成) ⇒ 牛の餌 ⇒ 糞尿 ⇒ メタンが大気中に放出

メタンは温室効果がCO₂の28倍も高い

牛糞(資源)を回収・バイオガス精製 ⇒ 自動車燃料に使用



10頭の1日の牛糞 ÷ 1台の1日の燃料





2023年9月

バイオガス生産プラントの設置について3者で合意

スズキ (SRDI)

アジア最大の乳業メーカー

Banas Dairy社



インド政府機関

全国酪農開発機構

2025年～

順次4つのバイオガス生産プラントを設置

- 予定投資額は合計23億ルピー（約40億円）
- 各プラントにはバイオガス充填スタンドを併設、CNG仕様車の燃料として販売

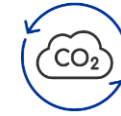
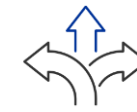


インド大使館で行われた契約締結式
(2023年9月6日)

SKYDRIVE



Applied EV

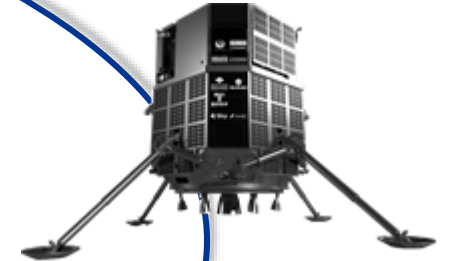


m2Labo.
AGRINNOVATION



Suzuki Global Ventures

HAKUTO-R



move

Find out how you can own a vehicle and drive with our partner programs in just five days.

GET STARTED



Apply to Move



Get your EV



Start driving

ELIY Power



Power X

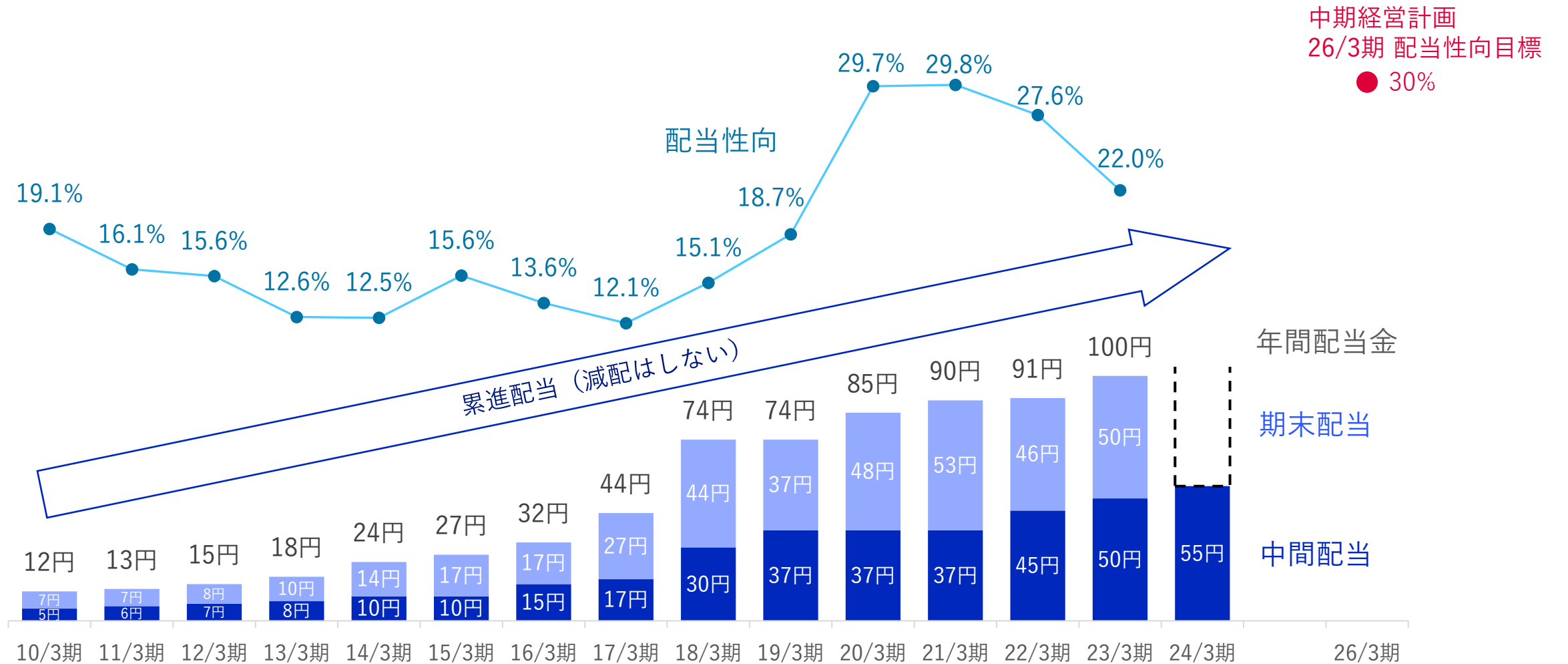


5. 株主還元・株式分割について

株主還元 | 1株当たり配当金



中間配当 **中間配当 55円**（前期比5円増配）：過去最高額



株主還元は、重要な経営課題の一つであり、
継続的かつ安定的な配当を方針とし、総還元性向の向上を検討していく

- 配当
 - ・ 中間配当は 1 株当たり 55 円（前期の中間配当 50 円から + 5 円増配）
- 自己株式取得
 - ・ 上期に 200 億円（3,768 千株）を実施
 - ・ 還元性向 8.3% 相当

株式分割による投資金額引き下げ

1. 株式分割の目的

投資単位当たりの金額を引き下げることで、より投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大を図ること

2024年3月31日まで

2024年4月1日より

2. 株式分割の概要

分割方法	2024年3月31日(日) (実質的には2024年3月29日(金)) を基準日とし、同日付の株主名簿に記載された株主様の所有する当社普通株式を1株につき4株の割合をもって分割
------	-----------------------------------------------------------------------------------------



おいしい大きになりました

3. 日程

基準日公告日 (予定)	: 2024年3月15日(金)
基準日	: 2024年3月31日(日)
効力発生日	: 2024年4月1日(月)



将来予想に関する注意事項

- このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おき下さい。
- 実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動（主に米ドル／円相場、ユーロ／円相場、インドルピー／円相場）などが含まれます。